

《薬局サーベイランスコメント》

『2017年第1週のインフルエンザの患者数は増加。第2週以降は更に急増して流行は本格化していくものと予想される』

2017年1月10日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

今シーズン（2016/2017年シーズン）の2017年第1週（1月2日～8日）の全国のインフルエンザ推定受診患者数は、薬局サーベイランスによると425,809であり、前週（第52週）の推定値（331,971）よりも増加しました（図1）。2017年第2週の月曜日（1月9日）の推定受診者数は休日の影響もあって32,709と少ないですが、全国の大半の学校で冬期休暇が終了する1月10日以降は患者数が急増し、流行は本格化していくものと予想されます。

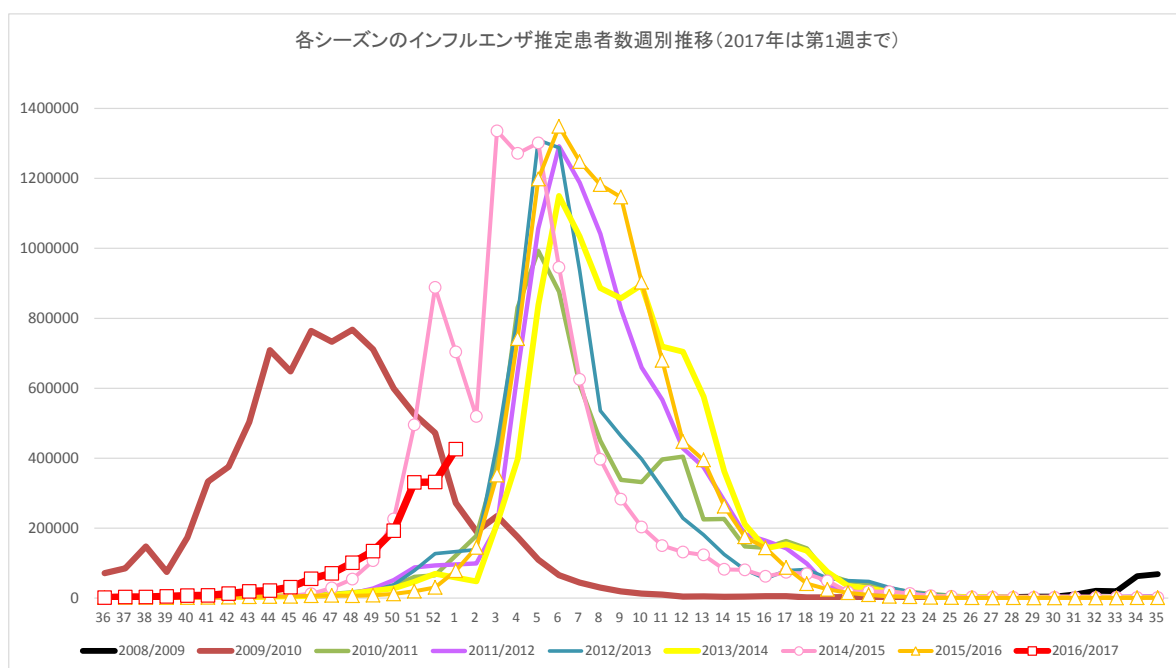


図1. 過去6シーズンと今シーズン（2016/2017シーズン）のインフルエンザ推定患者数の週別推移

2016年第36週から2017年第1週までの累積の推定患者数は1,755,373であり、日本の人口推計値（2016年11月1日現在、1億2695万人）で換算すると、累積の罹患率は1.38%となります。年齢群別では10～14歳（3.72%）、5～9歳（3.52%）、15～19歳（2.72%）、0～4歳（2.36%）、20～29歳（1.75%）、30～39歳（1.45%）、40～49

歳（1.27%）、50～59歳（1.10%）の順となっています（図2）。冬期休暇の影響によって第1週は5～14歳の年齢群の割合が低下していますが、学校等の再開によって今後は急増していくものと思われます。

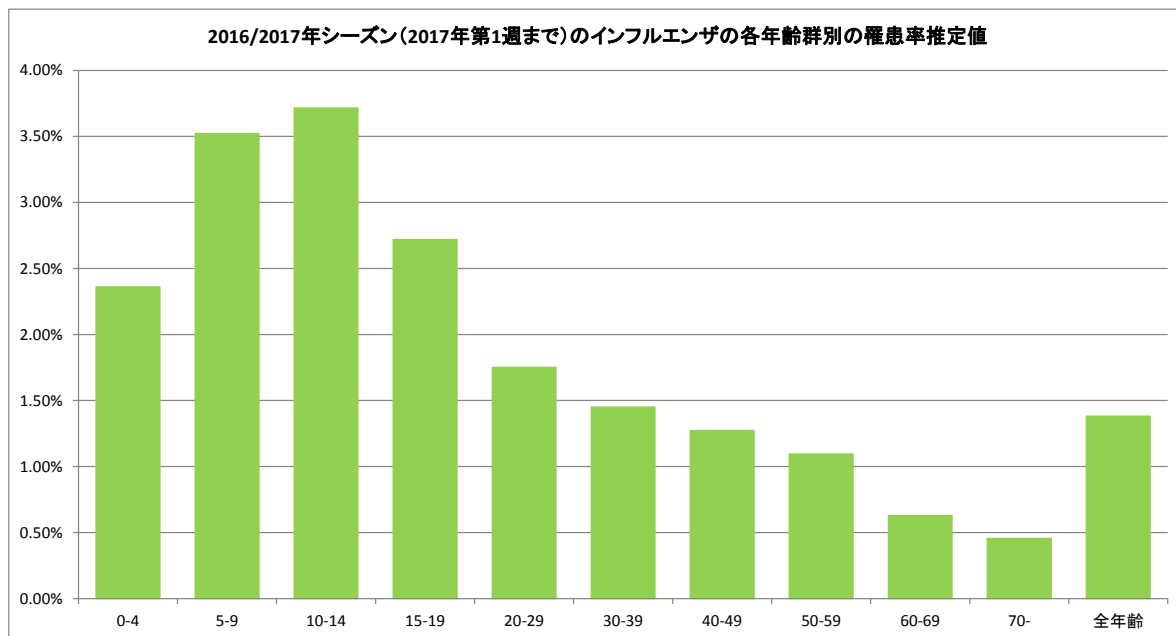


図2. 年齢群別のインフルエンザ罹患率推定値（2016年第36～2016年第52週）

各都道府県別の2017年第1週の人口1万人当たりの1週間の推定患者数をみると、福井県、北海道、徳島県、秋田県、広島県、栃木県、岐阜県、大分県、静岡県、東京都、三重県、富山県、岡山県の順となっています。

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報 (<https://nesid3g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf>) によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（856検体解析）は、A/H3（A香港）亜型が89.3%と大半を占めており、次いでA/H1pdm 7.8%、B型 2.9%の順となっています。

2017年第1週のインフルエンザの推定受診者数は増加が見られました。学校の冬季休暇が終了する第2週以降は更に急増し、流行は本格化していくものと予想されます。今後ともインフルエンザの患者発生の推移には注意が必要です。